

指定管理者制度導入施設 モニタリングシート

施設名称	与那原マリーナ	対象年度	平成30年度
------	---------	------	--------

【 目 次 】

I. 履行確認		
1. 維持管理業務	1
(1) 清掃		
(2) 保守・点検		
(3) 保安・警備		
(4) 小規模修繕		
(5) 備品購入		
(6) 防犯・防災対策		
(7) 料金徴収業務		
2. 運營業務	3
(1) 利用実績		
1) 収容数		
2) 付帯施設 利用率数		
(2) 運営企画		
(3) 受付・接客		
(4) 苦情・要望等		
(5) 広報		
(6) 情報管理		
3. 自主事業	5
II. サービスの質の評価	6
1. 維持管理業務		
2. 運營業務		
3. 自主事業		
4. 総合評価		
III. サービスの安定性評価(財務状況)	7
1. 事業収支		
(1) 収入		
(2) 支出		
2. 経営分析指標		
IV. 総合評価	9
1. 目標		
2. 評価結果		

※必要に応じて項目を追加・削除する。

指定管理者制度導入施設 モニタリングシート

施設名称	与那原マリーナ		対象年度	平成30年度
指定管理者	サンライズリゾート与那原マリーナ管理運営共同 企業体(構成員名:街クリーン(株)、(株)アイランドボート) 指定期間:H31年4月～R6年3月		所管課	土木建築部 港湾課

I. 履行確認

1. 維持管理業務

(1) 清掃

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
①管理棟、港内の 清掃 ②緑地芝刈り等 ③海上係留、陸置 保管施設の定期清 掃	○		事業計画のとおり 実施	現場及び業務報 告書にて確認	管理運営業務基 準に沿った内容 である	快適な施設利用を心が け、適正な清掃を実施して いる。

(2) 保守・点検

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
〈日常点検〉 機械の日常点検・ 月次点検を実施	○		事業計画のとおり 実施	現場及び業務報 告書にて確認	管理運営業務基 準に沿った内容 である	点検後、適切に実施簿に記 録している。
〈定期点検〉 電気保安、水質検 査、消防点検、ク レーン等	○		事業計画のとおり 実施	現場及び業務報 告書にて確認	管理運営業務基 準に沿った内容 である	専門機関に点検を実施させ ている。

(3) 保安・警備

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
昼間・夜間の常駐 警備		○	緑地・緑地以外も 均等に巡回	現場及び業務報 告書にて確認	管理運営業務基 準に沿った内容 である	特になし

(4) 小規模修繕

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
定期的な巡回によ り、異常があった場 合等50万未満の場 合は直ちに修繕措 置	○		駐車場精算機、 簡易フロートの補 修など	現場及び業務報 告書にて確認	管理運営業務基 準に沿った内容 である	台風被害以外は全て指定 管理者で修繕を実施し た。

(5) 備品購入

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
業務効率化、サービス向上を図る目的で、必要に応じて購入	○		シュレッダー、洗濯機、発電機など	業務報告書にて確認	管理運営業務基準に沿った内容である	業務上、必要なものを購入した。

(6) 防犯・防災対策

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
安全管理業務全般 (自然災害・荒天時含め)	○		監視カメラ、巡回などによりセキュリティの強化を図った	現場及び業務報告書にて確認	管理運営業務基準に沿った内容である	台風襲来前に想定していた風力を超えたため、これまでは被災しなかった箇所が被災した。

(7) 料金徴収業務

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
施設使用料金の徴収、収納業務	○		事業計画のとおり	現場及び業務報告書にて確認	管理運営業務基準に沿った内容である	遅延なく、県に納入した。

※維持管理業務については、必要に応じて項目を追加・削除して記入して下さい。

※「現状分析・課題」欄は具体的に記入してください。

1. 維持管理業務 取組改善案	平成30年度は、大型台風の到来によりマリーナ設備が被害を受け、想定外の大きな出費があった。日々のメンテナンスに加え、前回の台風被害を教訓とした対策を確実に実行し、修繕費の削減を図る。
--------------------	---

※「1. 維持管理業務」の各項目の「現状分析・課題」等を踏まえて、現年度(H30年度)の主な取組改善案を記入してく

2. 運營業務

(1) 利用実績

① 収容数 ※実績値は年度末時点

海上係留(契約艇・外来艇)		H29年度実績	事業計画 (目標値)	H30年度実績	整合性の検証		現状分析 ・課題
					前年比	計画比	
収容数 66	4月末時点	16	30	30	188%	100%	与那原マリーナの知名度も上がり、国内外からの問い合わせが増えてきた。
	9月末時点	24	35	44	183%	126%	
	3月末時点	29	40	42	145%	105%	
	平均値	23	35	39	168%	110%	-
					評価(①利用状況)		S

陸置場(契約艇・外来艇)		H29年度実績	事業計画 (目標値)	H30年度実績	整合性の検証		現状分析 ・課題
					前年比	計画比	
収容数 229	4月末時点	7	10	12	171%	120%	陸置は船台が必要となり、急激に収容数は増えにくい。
	9月末時点	11	15	13	118%	87%	
	3月末時点	12	15	15	125%	100%	
	平均値	10	13	13	133%	100%	-
					評価(①利用状況)		A

【評価基準(①利用状況)】
 目標値に対する達成率
 S : 110%以上
 A : 100%以上、110%未満
 B : 80%以上、100%未満
 C : 80%未満

② 付帯施設 利用数 ※実績値は年度内総数

		H29年度実績	事業計画 (目標値)	H30年度実績	整合性の検証		現状分析 ・課題
					前年比	計画比	
付帯施設	クレーン	0	100	101	-	101%	H30.5より稼働
	貸出用船台	0	100	183	-	183%	—
	船具倉庫	8	15	23	288%	153%	—
	研修室	251	300	413	165%	138%	海事検定等で使用
	計	259	515	720	278%	140%	—
					評価(①利用状況)		S

【評価基準(①利用状況)】
 目標値に対する達成率
 S : 110%以上
 A : 100%以上、110%未満
 B : 80%以上、100%未満
 C : 80%未満

(2) 運営企画

事業計画	実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	(事業報告書)	(現地確認)		
〈開港日数〉 休港日は火曜日と12/29～1/3	県条例に基づく開港日とする	業務報告書にて確認	整合	当該項目は管理事務所の営業時間・日であり、契約艇及びオーナーのマリーナへの入出港は年中自由となっている。 ※外来艇は一部制限あり。
〈開港時間〉 4～10月は、8時から18時30分 11月～3月は、9時から17時	県条例に基づく開港時間とする	業務報告書にて確認	整合	

(3) 受付・接客

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
公正、中立的な利用者対応	○		公正、中立的かつ笑顔で対応し、利用者とコミュニケーションをとるよう心掛けた	現場及び業務報告書にて確認	整合	公平性を徹底し、パース等の事前予約は行っていない。契約者や外来艇が出たタイミングで申し込みのあった艇から順次手続きを行っている。

(4) 苦情・要望等

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
ニーズを把握、分析し適切に対応	○		スタッフ間で情報共有し、早急な対応策の検討を図った	現場及び業務報告書にて確認	整合	現状は口頭による要望のみであるが、様々な意見を聴取するためにアンケート等の実施を検討する。

(5) 広報

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
HPやパンフレットによる情報発信	○		HPやブログの更新、新しいパンフレットの作成による情報発信	現場及び業務報告書にて確認	整合	口コミによる周知が広まってきている。

(6) 情報管理

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
適正かつ厳格に管理	○		コンピューター情報のセキュリティ対策等、適正かつ厳格に管理	現場及び業務報告書にて確認	整合	個人情報の扱いには万全を期している。

3. 自主事業

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
施設利用者の利便性向上事業	○		<ul style="list-style-type: none"> 艇の上下架作業に係る支援業務 高圧洗浄機レンタル業務 船舶の洗浄、修繕及び管理業務 船用台車レンタル業務 	現場及び業務報告書にて確認	整合	クレーン利用者は確実に増えている。上下架等の作業は危険が伴うため、各職員が安全の意識を持ち、適切な対応ができるように訓練する必要がある。
各種カード発行事業	○		<ul style="list-style-type: none"> 駐車パスカードの発行業務 クルーカード及びビジターカードの発行業務 	現場及び業務報告書にて確認	整合	ビジターカードの未返却が多い。セキュリティ対策のため各種カードの利用方法を改革する必要がある。
給油所の管理運営事業	○		船舶への給油業務	現場及び業務報告書にて確認	整合	満タン給油の要望が多いため、油流出には十分注意する。
マリンレジャー普及事業	○		<ul style="list-style-type: none"> 海技免許教室業務 ダイビングツアー業務 	現場及び業務報告書にて確認	整合	令和元年度からは船溜まりを利用したレジャー事業等を進めたい。

※「現状分析・課題」欄は具体的に記入してください。

2. 運營業務 3. 自主事業 取組改善案	海上係留と外来艇は増加しているが陸置バースにはまだ空きが多い。HP等を活用して陸置の利用促進を図りたい。また、令和元年度より、与那原マリーナ船溜まりを管理運営することとなるので、船溜まりを活用し港域の活性化を図る。
-----------------------------	---

※「2. 運營業務」「3. 自主事業」の各項目の「現状分析・課題」等を踏まえて、現年度(H30年度年度)の主な取組改善案を記入

II. サービスの質の評価

評価項目	第三者(利用者等)評価			指定管理者自己評価	現状分析・課題	
	H29年度評価	目標	H30年度評価			
維持管理業務 施設・設備管理	〈満足度〉60% ・満足40% ・やや満足20% ・やや不満40% ・不満0%	〈満足度〉70%	〈満足度〉80% ・満足30% ・やや満足50% ・やや不満20% ・不満0%	A	利用に支障を来す箇所は素早く対処した。 駐車場精算機は度々修繕しているが不具合が多い。大雨や湿気対策等が必要。	
			〈改善要望〉駐車場精算機の不具合が多いため、改善して欲しい			
運営業務	接客対応	〈満足度〉100%	〈満足度〉95% ・満足45% ・やや満足50% ・やや不満5% ・不満0%	S	職員は積極的に資格を取得し、船の上下架や給油等の作業がスムーズに行われるようになった。 クレーンの有資格者等の募集をかけているがなかなか確保ができない。そのため、職員に積極的に資格取得をさせている。	
			〈改善要望〉特になし			
	苦情等対応	なし	〈満足度〉80%	〈満足度〉80% ・満足20% ・やや満足60% ・やや不満20% ・不満0%	A	利用者のニーズや苦情等を把握し、誠意ある対応をしている。 スタッフ間で情報共有し、再発防止に努める。
				〈改善要望〉特になし		
施設・設備	〈満足度〉75% ・満足25% ・やや満足50% ・やや不満20% ・不満5%	〈満足度〉80%	〈満足度〉85% ・満足40% ・やや満足45% ・やや不満15% ・不満0%	A	クレーン利用者が増え船台のレンタル要望も増えている。特にカタマラン用の船台が必要と考える。 陸置を増やすため、船台の増設が必要。	
			〈改善要望〉船台を増やして欲しい			
利用・契約条件	〈満足度〉85% ・満足35% ・やや満足50% ・やや不満15% ・不満0%	〈満足度〉90%	〈満足度〉90% ・満足45% ・やや満足45% ・やや不満10% ・不満0%	A	契約者には面談を行い、マリナーのルールを説明した。 条例、規則を遵守した利用を徹底した。	
			〈改善要望〉水上オートバイの係留を認めて欲しい			
自主事業	〈満足度〉30% ・満足0% ・やや満足30% ・やや不満70% ・不満0%	〈満足度〉70%	〈満足度〉60% ・満足10% ・やや満足50% ・やや不満40% ・不満0%	C	利用者が楽しめるような自主事業を進めて行きたい。 宜野湾とは異なる客層であるため、与那原独自の取り組みを検討する。	
総合評価 (各評価項目の平均)	〈満足度〉65%	〈満足度〉80%	〈満足度〉80%	評価 (②満足度) A	適切な維持管理と笑顔の接客で、利用者が気持ちよく過ごせるようなマリナーをつくる。 適切な維持管理と笑顔の接客で、利用者が気持ちよく過ごせるようなマリナーをつくる。	

※評価項目については、施設の態様に応じて適宜設定して下さい。
※「現状分析・課題」欄は具体的に記入してください。

※1:満足度とは、回答選択肢のうち中位を超える割合(5段階評価の場合上位2段階の割合、4段階評価の場合上位2段階の割合、3段階評価の場合上位の割合)
ただし、奇数評価の場合、中央に集まる傾向があること、「普通」評価は改善に繋げる観点では価値が乏しいことから、4段階評価が望ましい。

【評価基準 (②満足度)】

総合評価においては各評価項目の満足度の平均
各評価項目においてはそれぞれの満足度
S : 90%以上
A : 80%以上、90%未満
B : 70%以上、80%未満
C : 70%未満

II. サービスの質の評価 取組改善案	効率的かつ効果的な管理を行い、サービスの質を向上させると同時にコスト削減を目指す。様々な情報提供や相談への対応を通じ、利用者とのコミュニケーションを図り、利用者の立場に立ったサービスを提供する。
------------------------	---

※「II. サービスの質の評価」の各項目の「現状分析・課題」等を踏まえて、現年度(H30年度年度)の主な取組改善案を記入してください。

Ⅲ. サービスの安定性評価(財務状況)

1. 事業収支

(1) 収入

収入項目		H29年度実績	事業計画	H30年度実績	前年比 (%)	計画比 (%)	整合性の検証
使用料 収入 (県へ帰 属)	海上係留・陸置場	24,351,987	35,000,000	44,120,890	181%	126%	大幅に収容数増加
	クレーン	0	300,000	302,760	-	101%	クレーンはH29d末に設置
	貸出用船台	0	300,000	313,780	-	105%	-
	船台置場	377,440	300,000	313,780	83%	105%	-
	船具倉庫	780,000	1,500,000	1,717,371	220%	114%	-
	水上オートバイ	15,004	200,000	177,540	1183%	89%	-
	ディンギー型ヨット	173,547	200,000	187,077	108%	94%	-
	シャワー	74,000	100,000	129,400	175%	129%	-
	駐車場	1,876,500	2,500,000	2,649,900	141%	106%	-
	会議室	253,510	300,000	417,130	165%	139%	海事検定等で使用
計	27,901,988	40,700,000	50,329,628	180%	124%	-	
指定管理料(県)(A)	40,000,000	42,882,000	42,882,000	107%	100%	クレーン設置に伴う人件費増	
修繕費用・利子等(県)(B)	61	0	10,013,046	16414830%	#DIV/0!	台風被害の復旧、船台新築	
自主事 業収入 (C)	ガソリン等販売	4,218,840	5,000,000	10,643,080	252%	213%	-
	自販機販売	100,000	150,000	127,717	-	85%	-
	利用者利便提供事業(船舶管 理、イベント支援、カード発行等)	24,262,263	4,280,000	12,558,933	52%	293%	-
	計	28,581,103	9,430,000	23,329,730	82%	247%	-
合計(D=A~C)	68,581,164	52,312,000	76,224,776	111%	146%	-	
〈現状分析・課題〉							
平成30年度後半は台風被害の復旧があり、修理業者との調整に時間を要した。 大型艇の寄港もあり、自主事業(ガソリン販売)の売り上げは大きかった。							

(2) 支出

支出項目	H29年度実績	事業計画	H30年度実績	前年比 (%)	対計画比 (%)	特記事項
人件費(給与、手当、法定福利費等)	19,743,156	19,747,000	22,011,134	111%	111%	臨時雇用等による増
賃金	65,600	2,070,000	0	0%	0%	-
旅費	185,023	324,000	129,111	70%	40%	-
需用費 (消耗品費、燃料費、印刷製本費、光熱 水費、雑費)	4,462,002	6,667,000	4,847,671	109%	73%	事務用品、駐車券、 シャボ・草刈機他燃料、 研修受講費等
役員費 (通信運搬費、保管料、広告費、手数 料、保険料、廃棄物処理費)	1,377,096	2,138,000	3,730,218	271%	174%	HP掲載、賠償保険、車 両保険、振込手数料等
委託料 (警備費、検査費)	9,834,780	9,836,000	11,679,111	119%	119%	常駐警備費、電気保安 管理
使用料及び賃借料	351,216	400,000	1,294,296	369%	324%	-
備品購入費	427,128	650,000	1,228,910	288%	189%	監視用カメラ等
修繕費	3,413,182	1,000,000	10,291,518	302%	1029%	台風被害等
その他(租税公課等)	5,900	50,000	3,900	66%	8%	-
合計(E)	39,865,083	42,882,000	55,215,869	139%	129%	-
〈現状分析・課題〉						
台風襲来により施設修繕以外に、廃棄物処理等に費用を要した。						

※「現状分析・課題」欄は具体的に記入してください。

2. 経営分析指標

評価指標	H29年度実績	事業計画	H30年度実績	前年比 (%)	計画比 (%)	特記事項
事業収支 (指定管理料(A)+修繕費等(B)-指定管理業務(E))	134,978	0	-2,320,823	-1719%	#DIV/0!	台風襲来前後の対応により人件費が計画より増となった。
収益率 (使用料収入/指定管理料(A))	70%	95%	117%	168%	124%	収容率増により使用料も増となった。
収入比率 (自主事業収入(C)/使用料収入)	102%	23%	46%	45%	200%	—
人件費比率 (人件費/指定管理業務(E))	50%	46%	40%	80%	87%	—
外部委託費比率 (外部委託費合計/指定管理業務(E))	25%	23%	21%	86%	92%	—
利用艇あたり管理コスト (指定管理料(A)/利用艇数)	769,231	824,654	824,654	107%	100%	—
〈現状分析・課題〉 指定管理期間第1期(3年間)のうち、2・3年目であるため、利用艇の増加や台風襲来等により、通常の比較は難しいが、可能な範囲でコスト削減が必要と考える。						

※「現状分析・課題」欄は具体的に記入してください。

評価(③財務状況)	B	【評価基準(③財務状況)】 収益率(事業収支/収入合計) A: 0%以上 B: -5%以上、0%未満 C: -5%未満
-----------	---	---

-3.0%

Ⅲ. サービスの安定性評価 (財務状況) 取組改善案	今後、安定的な経営に向けて執行内容の見直し等を行う。
----------------------------------	----------------------------

※「Ⅲ. サービスの安定性評価(財務状況)」の各項目の「現状分析・課題」等を踏まえて、現年度(H30年度年度)の主な取組改善案を記入してください。

【経営分析指標の評価の考え方】

評価指標	計算方法	評価の考え方
事業収支	収入(指定管理料(A)+修繕費等(B)) -支出(指定管理業務(E))	事業収支がマイナスの場合、継続性の面で課題となるため、県、指定管理者で協力して黒字化のための方策を協議する必要がある。 ※計画や過年度実績に対し変動がある場合には、その要因を整理すること。
収益率	使用料収入/収入(指定管理料)(A)	計画、過年度実績、類似施設と比較して、安定したものとなっているか、適切な範囲内となっているか確認する。 ※計画や過年度実績に対し変動がある場合には、その要因を整理すること。 ※計画等に対し上昇している場合、必要な変動費が十分に充てられているか確認すること。また、計画等に対し減少している場合、当初の収支見込が適切であったか精査すること。
収入比率	自主事業収入(C)/使用料収入	指定管理者の自主事業収入額を確認するとともに、使用料収入に見合った率であるのかを確認する。 ※過年度実績に対し増減がある場合には、利用料金そのものの増減によるものか、自主事業等その他収入の増減によるものかなど、その要因を整理すること。
人件費比率	人件費/支出(指定管理業務)(E)	過年度実績や類似施設と比較して、適切な範囲内となっているか確認する。 ※変動がある場合には、人件費そのものの増減によるものか、その他支出項目の増減によるものか、その要因を整理すること。 ※人件費の減少がある場合には、それにより効率が低下していないかを確認する。また、人件費の増加がある場合には、求められる管理水準に対し必要な措置か確認すること。
外部委託費比率	外部委託費合計/支出(指定管理業務)(E)	過年度実績や類似施設と比較して、適切な範囲内となっているか確認する。 ※増減がある場合には、外部委託の範囲が仕様書等に定める適切な範囲内となっているか、外部委託の活用が業務の効率化に繋がっているか確認する。
利用艇あたり管理コスト (自治体負担コスト)	収入(指定管理料)(A)/利用艇数 (ビーター及び契約者の延べ数)	利用艇1隻に対する管理コストについて、過年度実績や類似施設と比較することにより、当該施設の効率性を確認する。(コストが抑えられていても利用者が減少していないか、あるいは利用者は増加しているがコストがかかり過ぎていないかなど) ※変動がある場合には、その要因を整理すること。 ※過年度に対し上昇している場合、現状の利用者数に対して支出が過大になっていないか確認する。また、過年度に対し減少している場合、現状の利用者数に対し、必要な変動費が十分に充てられているか確認する。

IV. 総合評価

1. 目標

評価項目	評価指標	2019 (R1)	2020 (R2)	2020 (R3)	2021 (R4)	備考	
成果指標	①利用状況	収容数	70	75	80	85	海上への収容が想定以上に早く充足されたため、今後は陸置の収容増を図る。
	②満足度	満足度	85 %	85 %	85 %	85 %	供用開始時より厳格なルール作りに努めたため、利用者からは好評である。
財務指標	③財務状況	収益率	0.5%	0.5%	0.8%	0.8%	船だまりを含め自主事業の拡張性は高いため、各種事業を早めに検討・着手する。

2. 評価結果

評価項目	評価指標	H29年度実績	事業計画 (目標値)	H30年度実績		現状分析・課題	評価	取組改善案	R1年度 目標値		
				前年比	計画比						
成果指標	①利用状況	収容数	48	52	158%	108%	陸置のニーズはあるものの、船台が不足している。	A	これまでなかったヨット用船台をH30年度中に整備した。今後の整備は状況をみながら検討する。	70	
	②満足度	満足度	80 %	80 %	123%	100%	施設の維持管理、接客等に対する苦情はほとんどない。	A	今後も丁寧・適切な対応を行う。	85 %	
財務指標	③財務状況	収益率	0.0%	-3.0%	-899%	#DIV/0!	台風襲来前後の対応により人件費が計画より増となった。	B	台風襲来については、前年度の対応内容を見直し、万全な体制かつ手順で対応することとしている。	0.5%	
活動指標	④重点取組事項	自主事業の展開	駐車場のパスカードの発行	クレーンの上下架支援	クレーンの上下架支援	—	—	H29末に新たに設置されたクレーンの上下架支援を実施しており、利用者からも好評である。	A	艇の増加に伴い修理業者の往来頻度も高くなっているため、新たなルール作りが必要である。	A

総合評価	A
------	---

※「現状分析・課題」「取組改善案」は6-I～IIIから転記する。

※「H30目標値」は、「取組改善案」を踏まえ、現年度の目標を可能な限り数値目標として設定する。

【評価基準】

①利用状況

目標値に対する達成率

S : 110%以上

A : 100%以上、110%未満

B : 80%以上、100%未満

C : 80%未満

②満足度

総合評価における満足度（各評価項目の平均値）

S : 90%以上

A : 80%以上、90%未満

B : 70%以上、80%未満

C : 70%未満

③財務状況

収益率（事業収支／収入合計）

A : 0%以上

B : -5%以上、0%未満

C : -5%未満

④重点取組事項

目標に対する評価

S : 目標を大きく上回る

A : 目標を概ね達成

B : 目標を下回る

【総合評価基準】

総合評価基準	
S	40点以上 かつ各評価項目においてC評価がないこと
A	25点以上
B	10点以上
C	5点以下

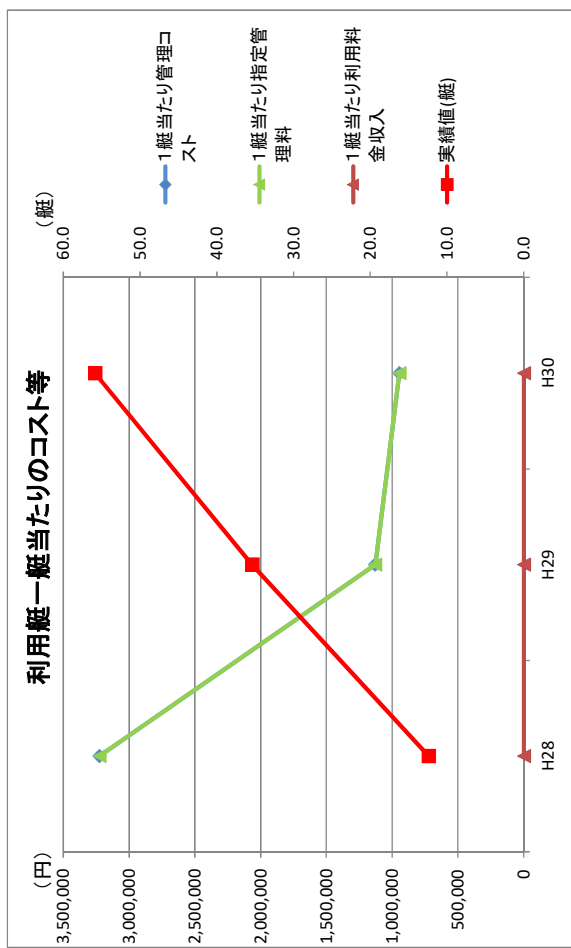
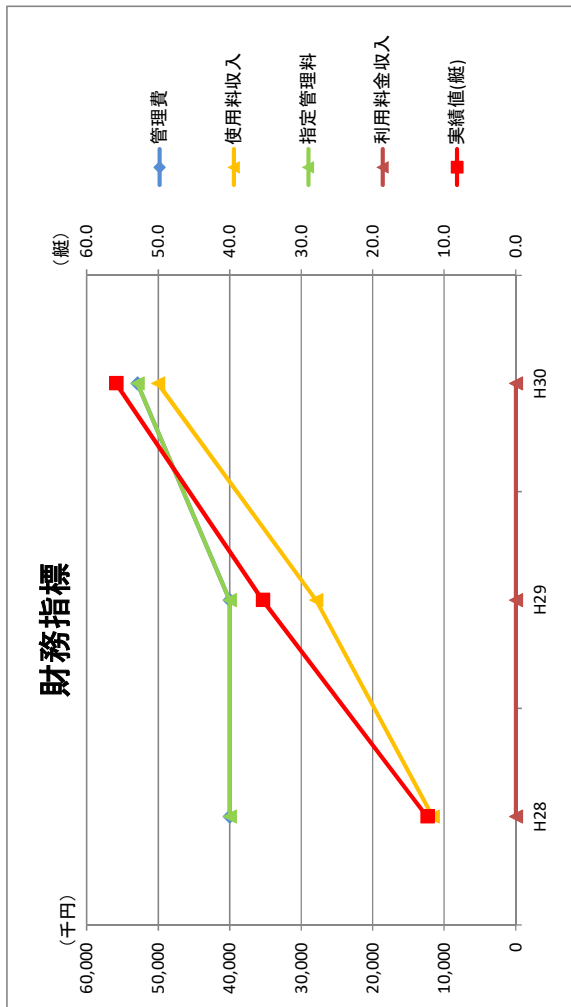
<各評価項目点数>

	① 利用状況	② 満足度	③ 財務状況	④ 重点 取組事項
S	20	20	—	10
A	10	10	5	5
B	0	0	0	0
C	-10	-10	-5	-5

施設名称：与那原マリーナ

指標	指定管理(供用開始)																					
	単位	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15		
成果指標	利用者数	艇	—	20	30	40	70	75	80	85	90	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	実績	艇	—	12.4	35.4	55.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	目標比	%	—	62%	118%	140%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
財務指標	指定管理料(十修繕費)	千円	—	40,000	40,000	52,894	43,500	43,500	43,500	43,500	43,500	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	県有指割合(指定管理料/管理費計)	%	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	利用料金収入	千円	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	使用料収入(施設使用)計	千円	—	11,616	27,902	50,016	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	管理費計	千円	—	40,000	40,000	52,894	43,500	43,500	43,500	43,500	43,500	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	収支	千円	—	-28,384	-12,098	-2,878	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	収益率(収支/収入計)	%	—	-43.4%	-43.4%	-5.8%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	一艇あたり管理コスト	円	—	3,225,806	1,129,944	946,225	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	一艇あたり指定管理料	円	—	3,225,806	1,129,944	946,225	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	一艇あたり利用料金収入	円	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※施設毎に、経営状況を分析する上で必要となる指標の加除可



特記事項 ※年度毎の変動について要因分析を記載

H30年度	クレーンの稼働により洗浄や修理を目的とした近隣からの香港も増えた。海上係留は順調に埋まってきた。
H29年度	広報効果や宜野湾マリーナの満隻も重なって、契約数の増加に繋がった。
H28年度	供用開始。実際の受け入れは7月からとなり、若干艇数は少なかった。
H27年度	—

目標設定の考え方

※目標設定の根拠や考え方などを記載

R1年度	海上係留が埋まり次第、陸置場の活用がなされると見込む。 ※今期より、船だまり部分も一体管理となるが船だまりの利用艇は見込まない。
R2年度	上記同様。過増
R3年度	上記同様。過増
R4年度	上記同様。過増